



## さ ざん か 山 茶 花

“さざんか、さざんか咲いた道、たき火だ、たき火だ落ち葉たき”と小学唱歌でも歌われ親しまれているように、秋の深まりとともに百舌の聲が冴える頃、白色や淡紅色の花を咲かせて諸花凋落しうらくの後の季節を飾ってくれます。

ひめ椿とも言われ、栽培の歴史は比較的新しく、江戸時代に入ってから、さかんに品種の改良が行われるようになったようです。

木枯しの精の中、散る葉とともに花びらを舞わせて散らす、一つの花の命が短い花木ですが、花の少ない冬ざれの時季に咲き出るその可憐さと寂びた風姿は、人々の心を引きつけるようです。

「山茶花の白きを愛づるこの園に  
われを怖れぬ山鳥のこゑ」

齋藤茂吉